

## 食を大切にする人々を育むまち・八王子

「食」は、私たちの暮らしに寄り添い、心身の健康を支える基盤であると同時に、人と人との絆(きずな)を育み、地域の文化や伝統を次世代へと継承していく力を秘めています。八王子市には豊かな里山や畑で育まれた地場農産物、地域の歴史と文化を味わう「桑都・八王子のふるさと料理」、そして5か所の学校給食センターの特色ある取組など、「食」を通じて地域をつなぐ多くの資源が息づいています。

本市では、食育の普及と定着を目指し、第1期(平成23年度～)は「知る」「広める」時期、第2期(平成28年度～)は「根付く」時期、そして、第3期(令和3～7年度)は「実践できる」時期と位置付け、市民活動団体、民間事業者など多様な主体と連携しながら、段階的に取組を進めてきました。

第4期食育推進計画の策定にあたり実施した市民意識調査では、朝食を摂らない人の増加、若年女性のやせ、男性の肥満の傾向が見られ、共食の機会が減少している傾向も確認できました。

また、核家族化や単身世帯の増加、ライフスタイルの多様化など社会環境の変化により、食生活のあり方も変わってきており、学校や地域での食育に加えて、「大人の食育」の重要性も高まっています。

こうした現状を踏まえ、私たちには一人ひとりが「食」と向き合い、年齢や生活環境に応じた食育の充実を図るとともに、地域とのつながりを育みながら、その価値を次世代へと継承していくことが求められていると考えます。

令和8年度(2026年度)より始動する

### 第4期食育推進計画

～ あなたと「食」の未来を織りなす ～

第4期では、市民一人ひとりである“あなた”と手を携えながら、八王子の未来へ「食」のバトンをつないでいきたいという願いを込めています。

幼年期から高年期に至るまで人生全体を見通して健康づくりを考える「ライフコースアプローチ」を重視しながら、3つの基本目標に向けて、4つの戦略と9つの作戦をもとに施策を展開し、将来像である「食を大切にする人々を育むまち」の実現を目指してまいります。その実現に向けては、市民の皆様をはじめ、生産者、民間事業者、大学など、みんなで心をひとつにし、共に歩みを進めていくことが重要です。今後も、皆様の更なる御理解、御協力をお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり御尽力いただいた「八王子市食育推進会議」の皆様、「ワークショップ」メンバーの皆様、そして市民意識調査やパブリックコメントを通じて貴重な御意見をお寄せくださった市民の皆様に、心より深く感謝を申し上げます。

令和8年(2026年)3月

八王子市長 初宿 和夫



# 第4期八王子市食育推進計画

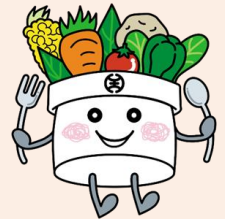
## 目次

第1章 総論	3
1 計画の概要	4
（1）計画策定にあたって	4
（2）計画の位置付け及び計画の性格	5
（3）計画の期間	8
2 将来像・基本目標	9
（1）将来像	9
（2）基本目標	9
3 目標達成に向けて	10
（1）本市の現状と課題	10
（2）計画全体を通じた視点・考え方	16
（3）戦略について	17
（4）共創による食育とは	22
4 計画の推進に向けて	24
（1）推進体制	24
（2）進行管理	24
（3）評価指標	25
第2章 各論	27
1 計画の体系図	29
2 施策の展開	32

資料編	67
1 用語解説	69
2 第3期計画の評価	72
（1）事業評価	72
（2）評価指標の調査結果	72
3 計画策定の経過	73

### はちおうじ食育キャラクター「はっちくん」

うえきばちがコンセプトのキャラクターです。鉢に植えてある野菜で「育てる」をイメージし、スプーンとフォークで「食べる」をイメージしています。八王子のマークのついた鉢に植えてある野菜は、八王子で育った野菜を表しています。八王子の野菜を食べよう!!という思いを込め、三原色を入れたことで栄養バランスの大切さも表現しています。



「はっちくん」は平成22年(2010年)6月に、市民約2,400の応募作品の中から選考を実施し、最優秀賞の作品を図案化したキャラクターです。作者は八王子市立檜原中学校2年(当時)星野莉沙さんです。

# 第1章

---

# 総論

# Ⅰ 計画の概要

## (1) 計画策定にあたって

### ア 策定の背景

国では、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むため、平成17年(2005年)7月に食育基本法が施行されました。前文では、食育は生きる上での基本であって、知育、徳育、体育の基礎となるべきものと位置付けられているとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てることと定義されています。

以後、食育基本法に基づき、食育の基本的な方針や目標について定めた「食育推進基本計画」が策定され、令和8年(2026年)3月には「第5次食育推進基本計画」が策定されました。

都では、国の食育推進計画を踏まえながら、平成18年(2006年)9月に「東京都食育推進計画」が策定され、令和8年(2026年)に「第5次東京都食育推進計画」を改定しました。

## イ 食育を取り巻く近年の動向

### ■食育と健康増進の関連性

人生100年時代を迎え、社会が多様化する中で、一人ひとりが抱える健康課題も多様化しています。食育は、健康の基盤を支える重要な取組であり、心身の健康増進と密接に関わっています。

国では、令和6年(2024年)より健康日本21(第三次)が実施されています。健康日本21(第三次)では、全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現というビジョンのもと、誰一人取り残さない健康づくりの展開やより実効性を持つ取組により健康格差の縮小に向けた健康づくりが進められています。

心身に健康な状態を目指すためには、食育による正しい食習慣の定着や栄養に関する知識の普及が重要です。特に、幼年期からの食育は将来に向けた生活習慣病の予防にもつながるため、幼年期から様々な場所における食育を一層強化することが必要です。

また、近年、家族構成やライフスタイルの多様化により、ひとりで食事をする「孤食」の人が増加しています。孤食は、栄養バランスの偏り、コミュニケーション能力の低下、食事マナーを学ぶ機会の減少など、様々な影響を及ぼします。こうした課題を受けて、地域における食育の取組が重視され、特に食文化の継承や孤食の解消を目的として、地域住民が交流しながら食事を共にする機会の提供が求められています。ここ最近では、「子ども食堂」等の活動が全国的に広がっており、家庭での共食が難しい子どもたちに対して、地域が共食の場を提供する取組が進められています。

### ■大人の食育の推進

朝食欠食や栄養バランスの偏り、食への関心の低下など食を取り巻く克服すべき課題が多様化している中、ライフコースに応じた大人の食育が重要となっています。改めて食や農に対する理解を深め、健康な食事をとり、楽しい食の時間を過ごすため、国は「大人の食育」を推進する官民連携食育プラットフォームを創設し、民間事業者等、食にかかわる様々な主体が連携し、大人の消費者への働き掛けを進めています。

## ■食卓と農業の生産現場の距離を縮める

大都市への人口集中や都市の進展により、消費者の食卓と農業の生産現場は距離が遠くなっています。農業の生産現場への理解を深めるため、農業体験などの機会の創出や地産地消に関する情報発信などの取組が必要です。

## ■持続可能な食環境

食の持続可能性の確保は、健康寿命の延伸を図るうえでも重要な視点の一つです。近年、頻発する自然災害に加え、農林漁業者や農山漁村人口の高齢化および担い手の減少が進む中、国の令和6年度（2024年度）における食料自給率は、カロリーベースで38%、生産額ベースで64%にとどまり、多くの食料を海外からの輸入に依存している状況です。

一方で、令和5年度（2023年度）の推計では、年間464万トンもの食品ロスが発生しており、食料資源の有効活用の観点からも、食品ロスの削減に向けて一人ひとりが意識的に取り組むことが求められています。

脱炭素社会の実現に向けては、食品の生産から廃棄までの過程で排出される温室効果ガスに配慮し、排出量の少ない商品を選ぶことが重要です。製品やサービスの原材料調達から廃棄までの温室効果ガス排出量を「見える化」する仕組みをカーボンフットプリントといいます。温室効果ガス排出量を定量的に把握することにより、多様な主体が一体となって削減対策を実践することが期待されています。また消費者においては、環境に配慮した製品やサービスを選択することで、脱炭素社会の構築に貢献することが期待されています。

## ■食のデジタル化への対応

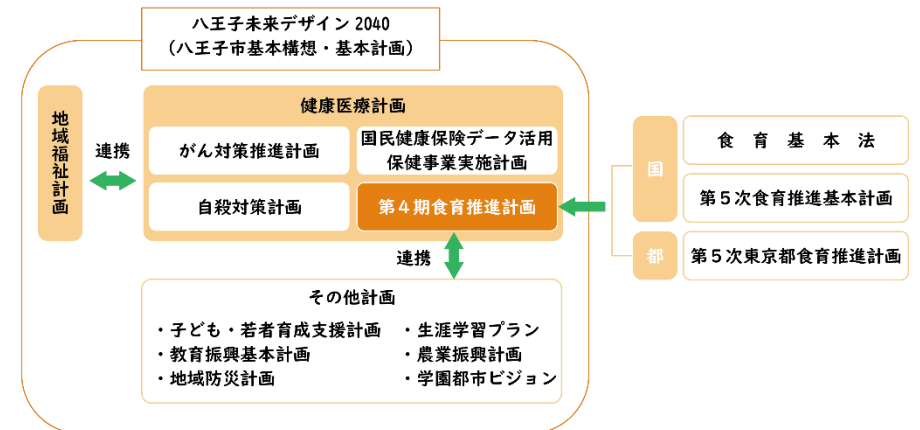
新型コロナウイルス感染症の影響や、それを受けて示された「新しい生活様式」により、食を含む私たちの生活は大きく変化しました。こうした「新たな日常」の中において、より多くの人々が主体的に食育を実践していくためには、ICT（情報通信技術）や社会のデジタル化の進展を踏まえ、SNS、インターネット、AI等を積極的に活用することが求められます。

## (2) 計画の位置付け及び計画の性格

### ア 計画の位置付け

食育基本法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画として位置付け、国の第5次食育推進基本計画（令和8年（2026年）3月）及び都の第5次東京都食育推進計画（令和8年（2026年）3月）との整合性を図り、「第4期八王子市食育推進計画」を策定しています。

また、本市の基本構想・基本計画である「八王子未来デザイン2040」を上位計画とする「八王子市健康医療計画」に基づく計画として、市民の食育活動の推進に向けて、本市の関連する計画と補完・連携し合うものとして位置付けられています。



## イ 計画の性格

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) とは、平成27年(2015年)9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で示された、平成28年(2016年)から令和12年(2030年)までの国際目標です。

SDGs では地球上の「誰一人として取り残さない」社会の実現を目指し、世界中の国が共通して解決しなければいけない経済、社会、環境の課題を17の目標と169のターゲットを掲げています。

SDGs の目指す『「誰一人として取り残さない」社会の実現』は、「食を大切に  
する人々を育むまち」の実現に向け、生涯にわたり健康で生き活きとした生活を送ることを目指す第4期八王子市食育推進計画の方向性と共通しています。

本計画において、主に「目標2. 飢餓をゼロに」、「目標3. すべての人に健康と福祉を」、「目標4. 質の高い教育をみんなに」、「目標12. つくる責任 つかう責任」、「目標17. パートナリシップで目標を達成しよう」の目標が関連する目標であると捉えています。

また、八王子未来デザイン2040において変革のキーワードとして定められている「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」「カーボンニュートラル」を意識し、各施策を推進します。

さらに、本市の食育を推進するにあたっては、多様な人との連携が欠かせません。そのため、様々な主体が互いの価値観を認め合い、広い視野をもって、世代・分野・地域を超えて連携し、地域資源をつなぎながら、持続可能な「共創による食育」を進めます。



**DXとは**  
デジタル技術の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること



**カーボンニュートラルとは**  
温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること



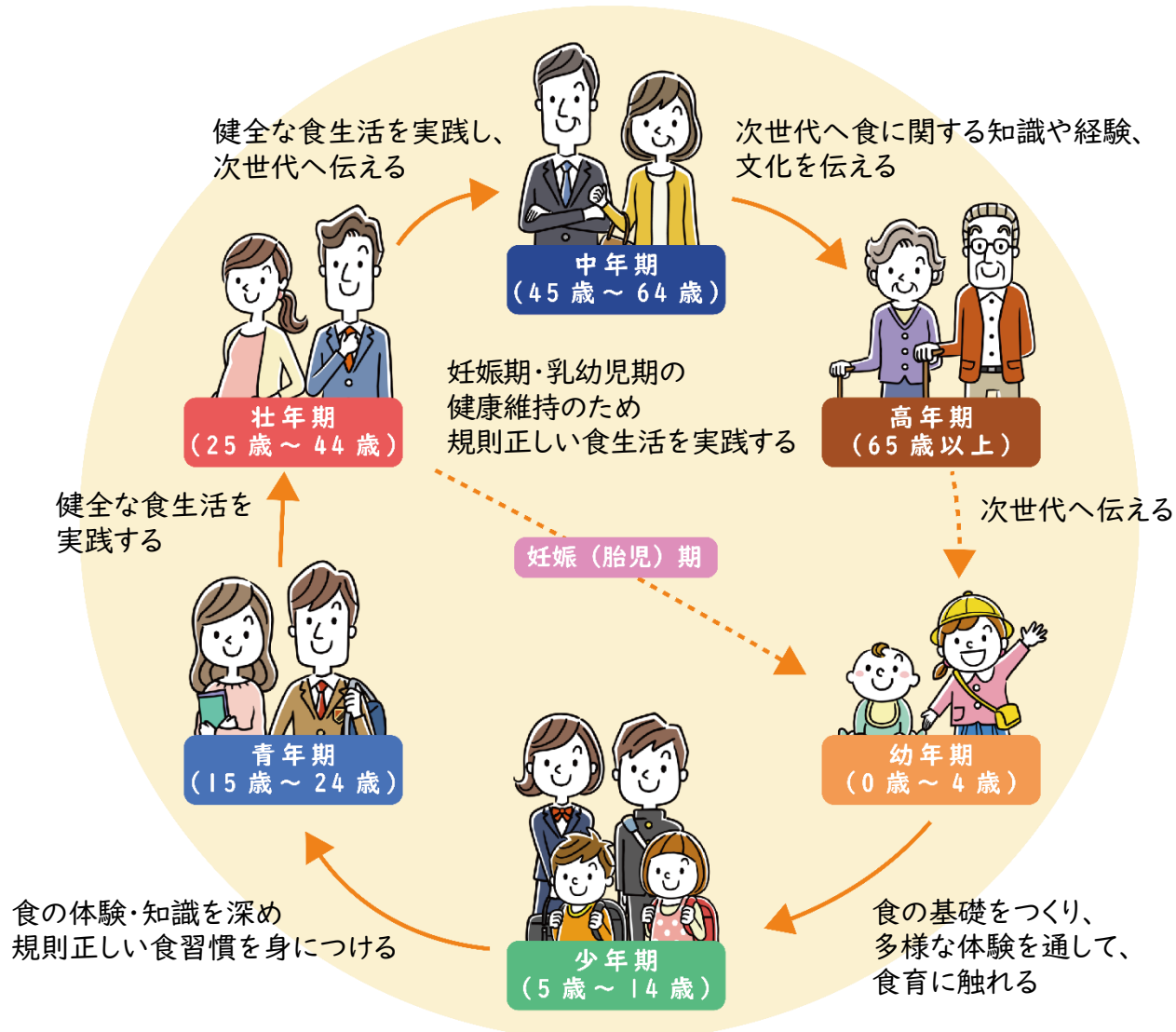
**共創とは**  
対話と共感から、新たなソリューション(解決策)をと(共)に創り出すこと



## ウ ライフコースアプローチ

食育の推進にあたっては、胎児の健康にも影響を与える妊娠期を含め、幼年期から高年期に至るまで、それぞれのライフステージに応じた取組を行います。また、自身の現在の生活習慣が将来の自分の健康に影響してだけでなく、自身の子ども（次世代）にも影響することを意識するなど、ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりに取り組みます。

■ライフコースイメージ図



### (3) 計画の期間

本計画は、令和8年度（2026年度）から令和11年度（2029年度）の4年間を計画の期間とします。

令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
八王子市基本構想・基本計画 (八王子未来デザイン2040)						
八王子市健康医療計画						
第3期八王子市食育推進計画	第4期八王子市食育推進計画					
【都】東京都食育推進計画	【都】第5次東京都食育推進計画					
【国】第4次食育推進基本計画	【国】第5次食育推進基本計画					

### コラム ～注目のヘルスケア!プレコンセプションケアって何ですか?～

「プレコンセプションケア」、略して「プレコン」。性別を問わず、適切な時期に、性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザイン（将来設計）や将来の健康を考えて健康管理を行う取組です。

これは今の自分や将来の自分の健康につながるだけでなく、将来の次世代を担う子どもたちの健康にも関わります。

将来の妊娠・出産を希望しない方でも、性や妊娠・出産について科学的に正しい知識を持つておくことは、自分や相手を守るためにも必要なことと言えます。

プレコンセプションケアは、満ち足りた自分（well-being）の実現につながるヘルスケアとして注目されています。

20代女性では、5人に1人が痩せ（BMI18.5未満）とされていますが、特に若年女性の痩せは骨量減少や、低出生体重児出産のリスク等との関連があります。



▲生涯のうちの  
プレコンセプションケアの位置付け



プレコンセプションケアにより、妊娠前からの望ましい食生活の実践など、適切な健康管理に向けた取組が重要です。(健やか親子21より)

まずは、できることから始めてみませんか？

☑プレコン チェック は国立成育医療研究センターのホームページで見ることができます。

引用元(出典:国立成育医療研究センター)より一部改編

## 2 将来像・基本目標

### (1) 将来像

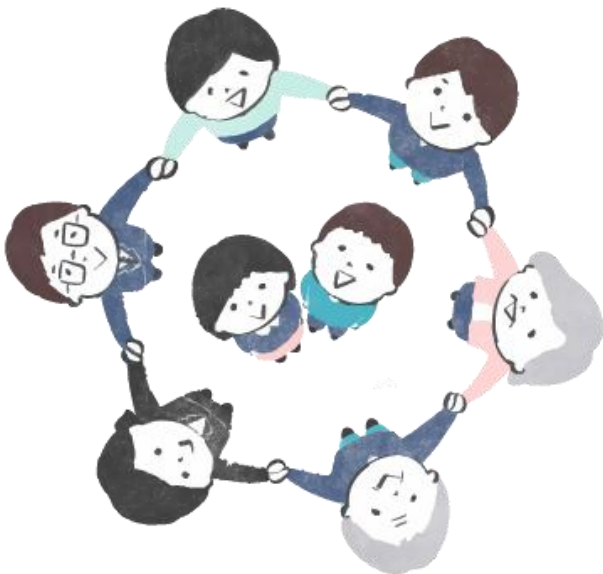
### 食を大切にしている人々を育むまち

「将来像」は、食育推進計画を通して実現を目指す、本市の姿を指します。

本計画では、国・都の動向、食育推進の課題等を踏まえつつ、第3期計画で掲げた将来像「食を大切にしている人々を育むまち」を引き継ぎます。

私たちが生涯にわたり健康で生き生きとした生活を送るためには、望ましい食生活を送ることが大切です。

本市の恵まれた環境を活かしながら、農業や伝統的な食文化に触れ、人々のつながりを深め、広げていくことにより、将来像の実現を目指します。



### (2) 基本目標

将来像の実現に向けた、3つの基本目標も第3期計画から引継ぎます。

#### 基本目標

1

#### 望ましい食習慣を身につける

健康寿命の延伸に向け、生活リズムを整え、自身の身体や日々の活動に見合った食事量や食事バランスを把握して、規則正しい食習慣を身につけます。

#### 基本目標

2

#### 食の基本的な知識、スキルを養う

食の安全・安心に関する知識を身につけ、外食や中食(惣菜や弁当等を購入して家で食べる食事)を利用するときも適切な食を選択できる力や料理を作る力等のスキルを養います。

#### 基本目標

3

#### 食を通じて、家族、地域、自然とつながる

家庭や地域で食卓を囲む時間を大切にし、地産地消の推進や地域の行事食・伝統料理を知ることを通じて、人々との交流や自然への親しみを深めます。環境に配慮した食の循環をすすめ、人と自然の調和した豊かなまちづくりを目指します。

### 3 目標達成に向けて

#### (1) 本市の現状と課題

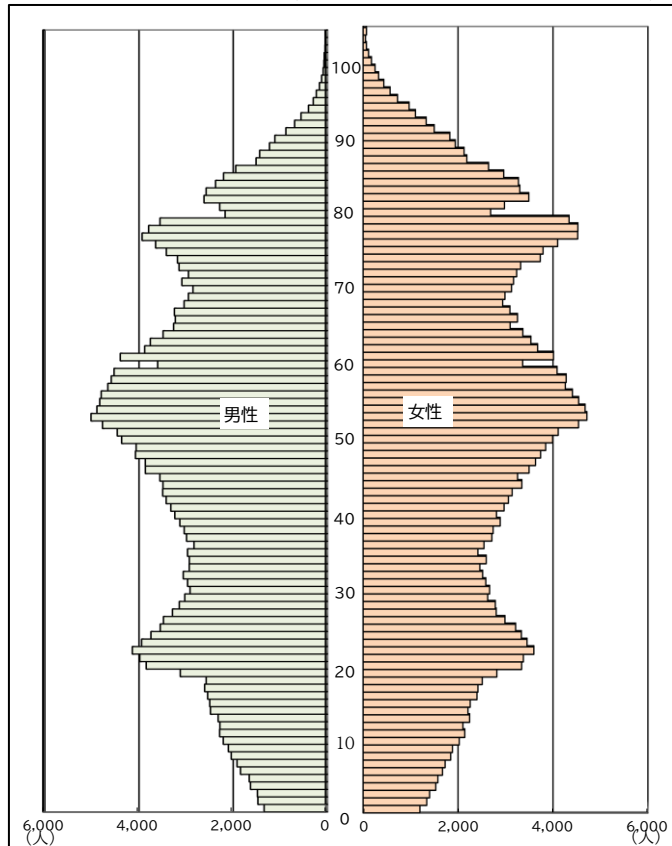
##### ア 現状

##### (ア) 人口

■本市の人口は559,264人であり、市内の生産年齢人口の割合は61.9%、平均年齢は48.4歳です(令和7年(2025年)9月末日現在)。

■年齢分布図から20代、50代と70代の人口が多くなっています。

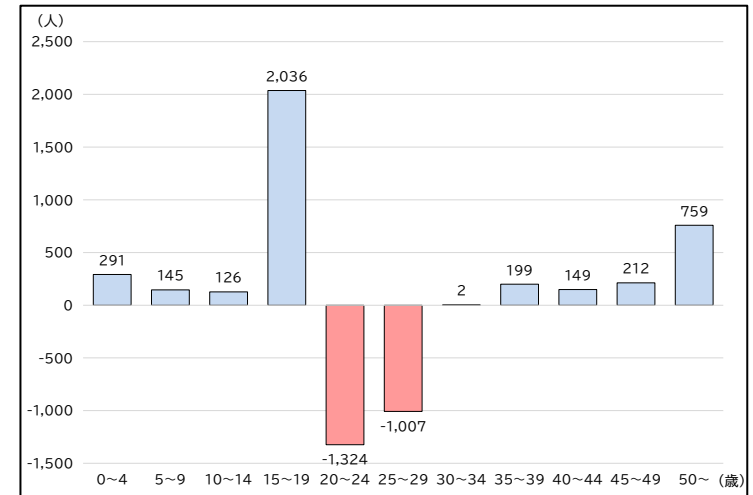
【図 本市の人口ピラミッド(令和7年(2025年)9月末日現在)】



出典：八王子市年齢別人口報告

■21の大学、短期大学、高等専門学校があり、約9万人の学生が学んでいる全国でも有数の学園都市であることから、15～19歳の転入超過が顕著となっています。しかしながら、学校卒業後の20～29歳人口は、転出超過となっています。

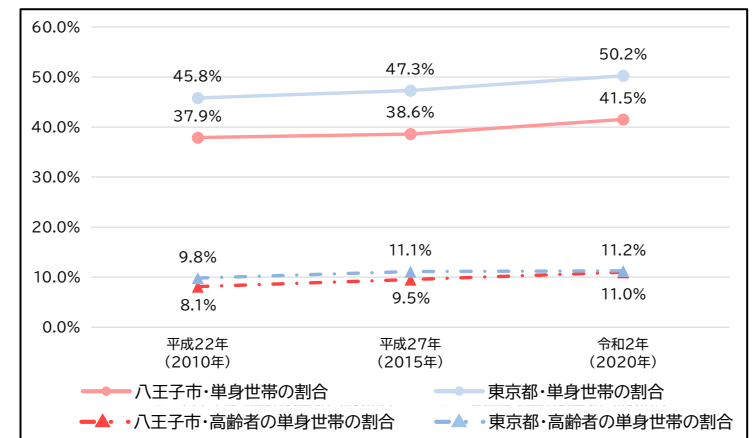
【図 本市の年齢別転入超過者数(令和6年(2024年))】



出典：住民基本台帳人口移動報告

■世帯全体に占める単身世帯の割合、高齢者の単身世帯の割合は、ともに都の割合を下回るものの、どちらも増加傾向にあります。

【図 単身世帯割合・高齢者単身世帯割合】

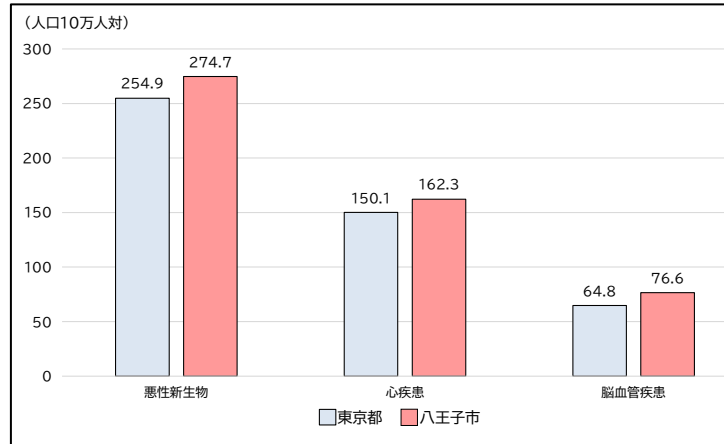


出典：2010・2015・2020年国勢調査

## (イ) 市民の健康状態

■死亡状況について、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患による死亡率は都の死亡率を上回っています。

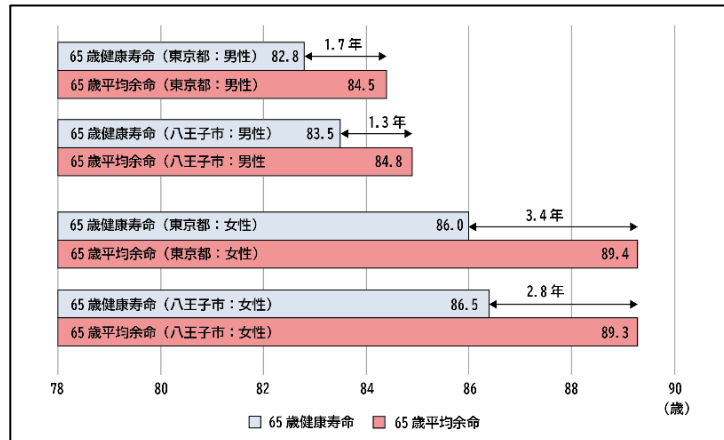
【図 (人口10万人対) 生活習慣病による三大死因別死亡率(令和5年(2023年))】



出典:令和7年度(2025年度)八王子市保健所年報

■65歳健康寿命、平均余命は男女ともに都の平均期間より長くなっています。要介護2になるまでの健康寿命では、男性は83.5歳、女性は86.5歳となっており、それぞれ平均障害期間は、男性で1.3年、女性で2.8年です。

【図 65歳健康寿命、平均余命(令和5年(2023年))】



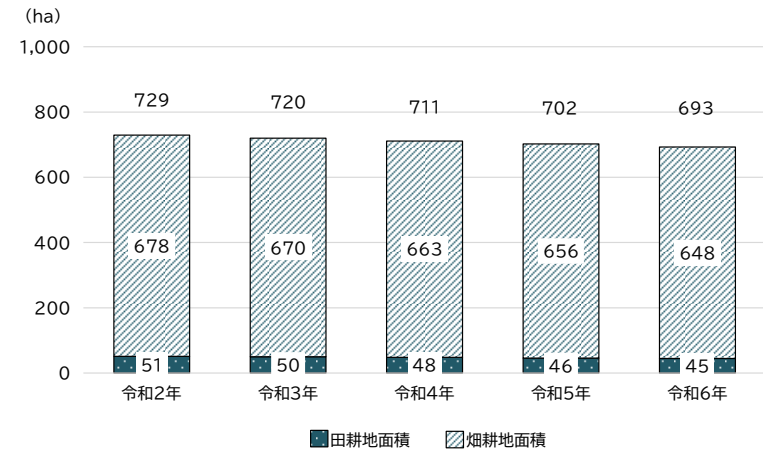
出典:東京都保健医療局 令和5年(2023年) 都内各区市町村の65歳健康寿命

## (ウ) 農業

■本市は、中央道、国道20号線(甲州街道)が通る交通の要衝の地で、都心から西へ約40kmに位置し、都心方向の東部地域以外は丘陵地帯に囲まれ、中でも西側は山間地となっています。

■耕地面積は、下図のように令和2年(2020年)からの5年間で36ha減少し、令和6年(2024年)で693haとなっています。

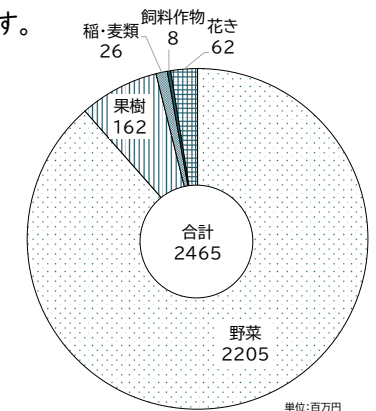
【図 本市の耕地面積】



出典:農林水産関係市町村別統計

■農業産出額は24億6500万円で、野菜の生産が約9割を占めています。  
 ■品目別の産出額はトマト(18%)、ナス(7%)、コマツナ(5%)、ホウレンソウ(5%)、キュウリ(4%)の順となっています。

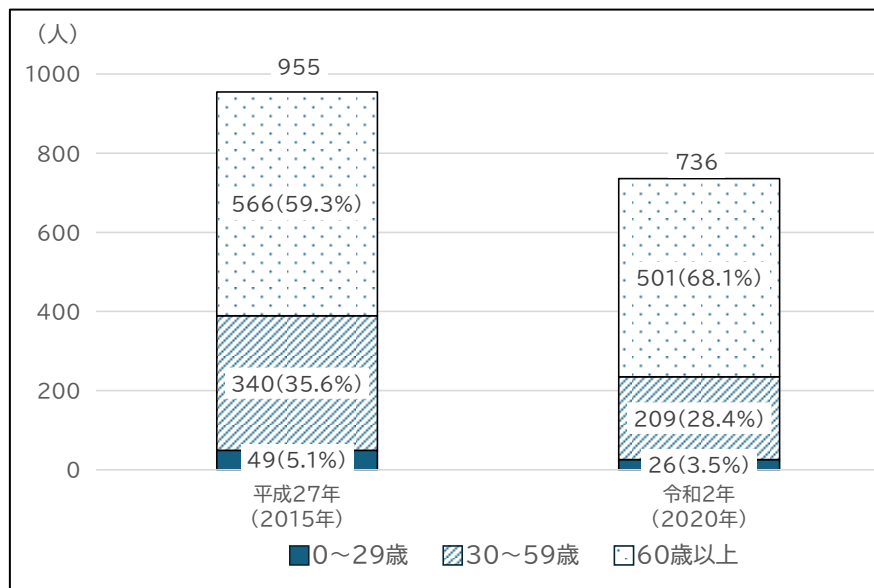
【図 農業産出額(令和5年(2023年))】



出典:令和5年(2023年)東京都農作物生産状況調査結果報告書

■販売農家人口（農業従事者数）については、下図のように平成27年（2015年）の955人から令和2年（2020年）の736人に減少しています。また、0～29歳、30～59歳の割合は減少している一方、60歳以上の割合は増加傾向と、農業従事者は高齢化しています。

【図 本市の年齢別販売農家人口（農業従事者数）】



出典：2015・2020年農林業センサス

### (エ) 食品ロス

■まだ食べられるのに捨ててしまう食品（食品ロス）については、日本全体では年間約464万トン（令和5年度（2023年度）推計値）であり、本市では年間約13,800トン（家庭系約8,700トン、事業系約5,100トン）発生していると推計しています。これは、市民1人当たりゆで卵約1個分（約68グラム）を毎日捨てていることを意味します。（令和6年度（2024年度）組成分析調査）

### イ 意識調査の概要

本計画を策定するにあたり、基礎調査として市民及び大学生を対象とした市民意識調査と、幼稚園・保育園・小学校に通う児童の保護者及び中学校・高等学校に通う生徒を対象とした子ども意識調査を実施しました。市民や児童・生徒の食育に対する意識や活動状況を把握し、本市の食育推進のための課題整理、取組の方向性の検討を行いました。

#### ■ 調査対象

##### (ア) 市民意識調査

- a. 市内に居住する18歳から74歳までの男女2,000名を無作為抽出
- b. 市内大学の大学生250名
- \* aとbの調査対象を合わせて「全体（18歳～74歳）」とする

##### (イ) 子ども意識調査

幼稚園、保育園の4・5歳児の保護者、小学校（5年生）の保護者、中学校（2年生）、高等学校（2年生）

#### ■ 調査期間

令和6年（2024年）10月25日から令和6年（2024年）11月13日

八王子市食育推進計画策定に係る市民意識調査・子ども意識調査の詳細結果は、市のホームページで見ることができます。

八王子市民の食育に関する意識調査



## ウ 意識調査の結果(クロス分析)

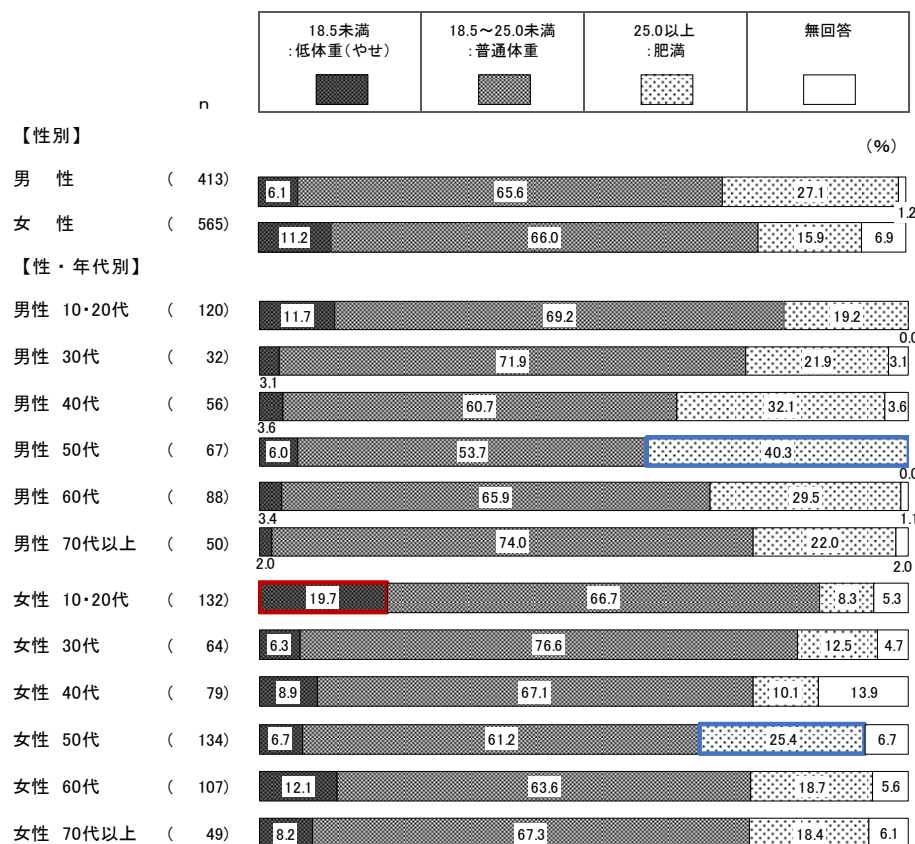
(※説明文の下線色に合わせ、対象となるグラフの帯を色付けしております。)

### (ア) BMI×性・年代別

BMIの結果では、男性は女性より「25.0以上:肥満」が11.2ポイント高く、女性は男性より「18.5未満:低体重(やせ)」が5.1ポイント高くなっています。

性・年代別では、女性10・20代の「18.5未満:低体重(やせ)」が2割弱と全体で最も高くなっています。一方で、男女ともに50代の「25.0以上:肥満」の割合が高くなっており、特に男性では約4割が肥満となっています。

#### ■BMI×性・年代別のクロス集計

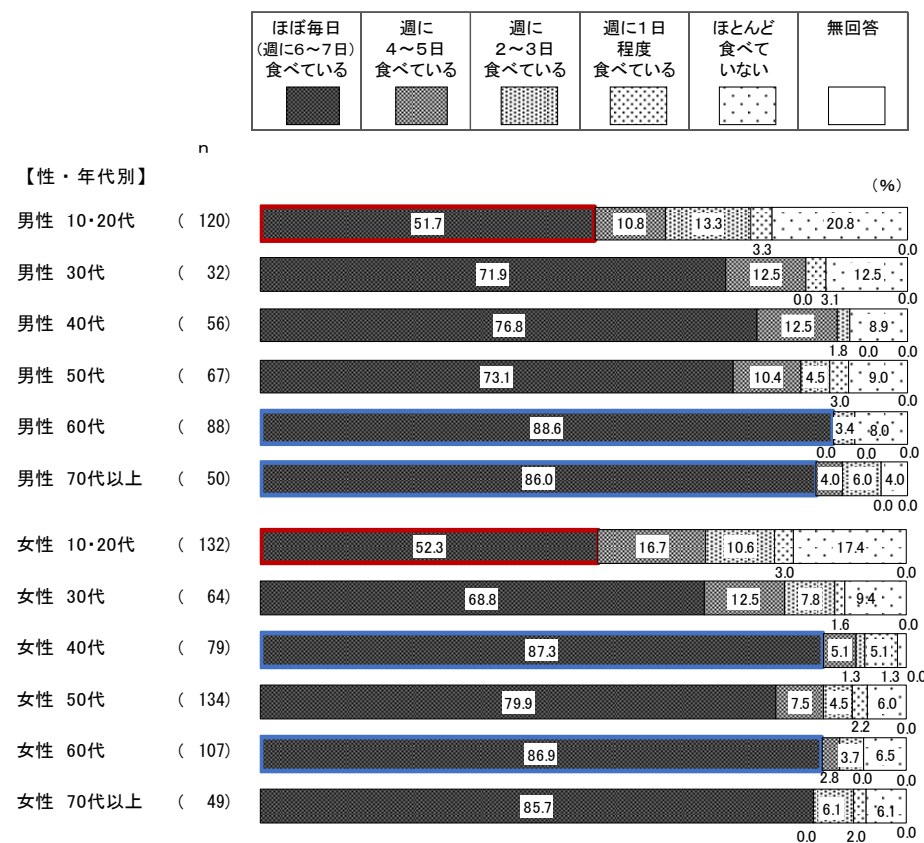


### (イ) 朝食摂取状況×性・年代別

朝食摂取状況の結果では、「ほぼ毎日(週に6~7日)食べている」の回答が、男性では60代、70代以上、女性では40代、60代で約9割と高くなっています。

一方で男女ともに10・20代では、「ほぼ毎日(週に6~7日)食べている」の回答が約5割と低くなっており、「ほとんど食べていない」が約2割と全体に比べ高くなっています。

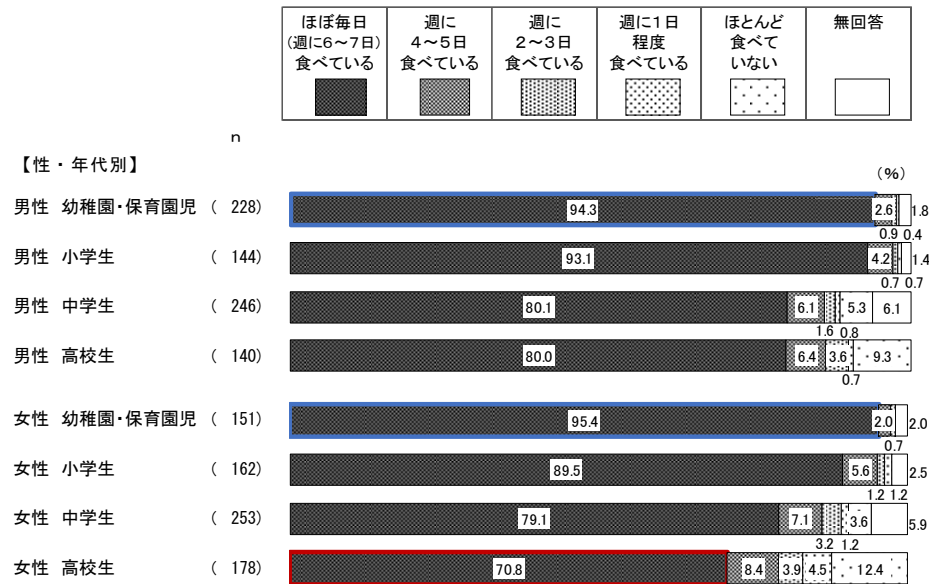
#### ■朝食摂取状況×性・年代別のクロス集計



(ウ) 朝食摂取状況×性・年代別(子ども)

子どもの朝食摂取状況の結果では、「ほぼ毎日(週に6~7日)食べている」の回答が、幼稚園・保育園児で男女ともに約9割台半ばと高くなっています。一方で、高校生(女性)では、「ほぼ毎日(週に6~7日)食べている」の回答が約7割と低くなっています。

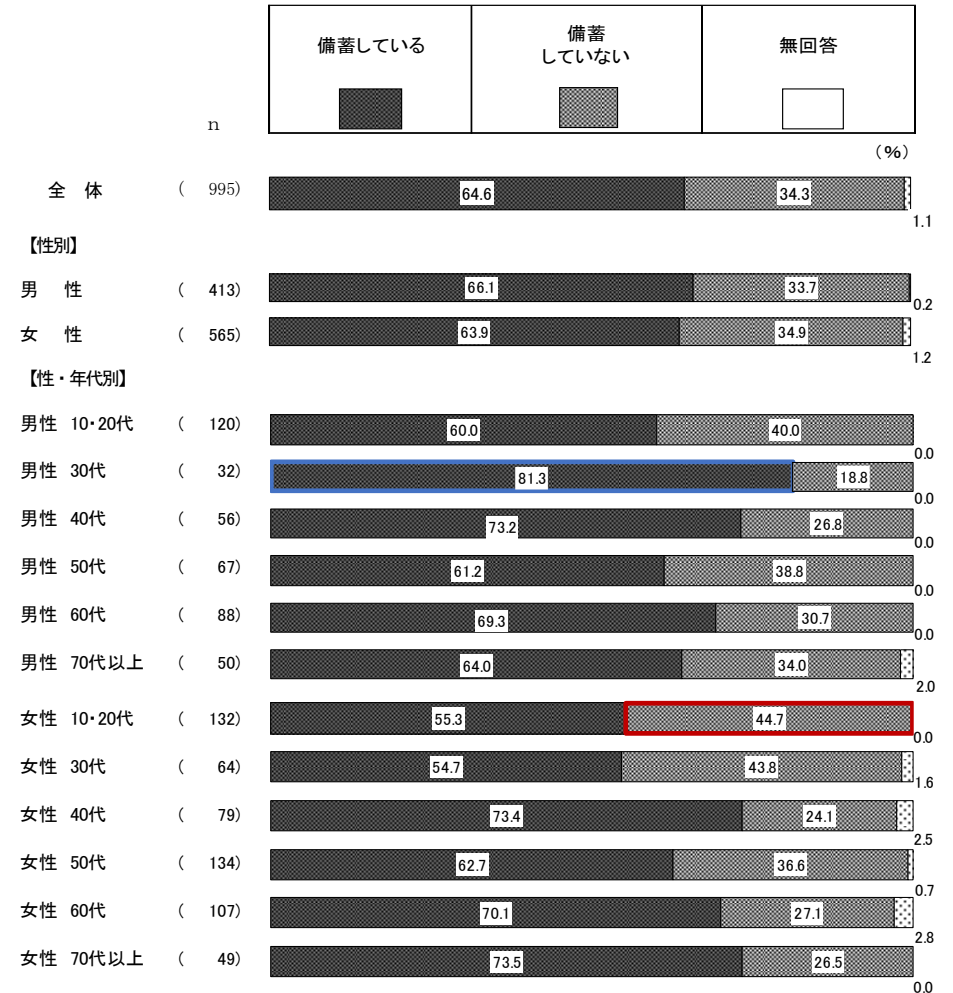
■朝食摂取状況×性・年代別のクロス集計(子ども)



(エ) 災害に備えた食料の備蓄状況×性・年代別

性・年代別では、「備蓄している」は男性30代で8割強と高くなっています。一方、「備蓄していない」は女性10・20代で4割半ばと高くなっています。

■災害に備えた食料の備蓄状況×性・年代別のクロス集計



(オ) ひとりで食事をする人×性・年代別

「食事とともにする人」について「ひとりで」食事をする割合は、男性は女性より高くなっています。

年代別では、「平日3食+休日3食すべて『ひとりで』」の回答が、男性では60代が17.0%、女性では70代以上が16.3%と他の年代と比べ、最も高くなっています。

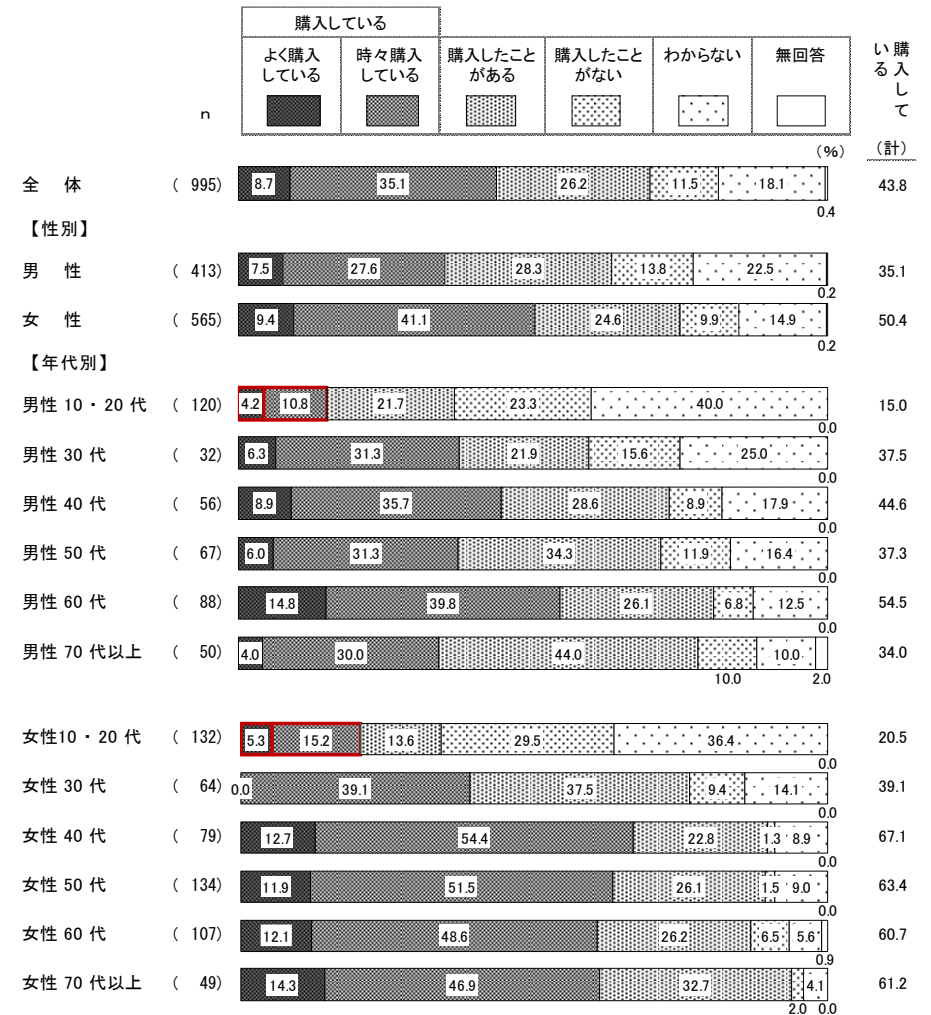
■「ひとりで」食事をする人×性・年代別のクロス集計

n	す平日3食「ひとりで」			す休日3食「ひとりで」			す平日3食+休日3食「ひとりで」		
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体 (995)	12.7	13.0	8.3						
【性別】									
男性 (413)	15.7	16.7	11.6						
女性 (565)	10.1	9.6	5.7						
【性・年代別】									
男性 10・20代 (120)	15.0	19.2	11.7						
男性 30代 (32)	12.5	15.6	6.3						
男性 40代 (56)	10.7	12.5	7.1						
男性 50代 (67)	16.4	11.9	10.4						
男性 60代 (88)	21.6	21.6	17.0						
男性 70代以上 (50)	14.0	14.0	12.0						
女性 10・20代 (132)	9.1	13.6	3.8						
女性 30代 (64)	9.4	7.8	4.7						
女性 40代 (79)	2.5	1.3	1.3						
女性 50代 (134)	10.4	5.2	3.7						
女性 60代 (107)	12.1	13.1	9.3						
女性 70代以上 (49)	20.4	18.4	16.3						

(カ) 八王子産の農産物の購入状況×性・年代別

八王子産の農産物の購入状況の結果では、「購入している」の割合は、男女ともに10・20代が他の年代と比べ、最も低くなっています。

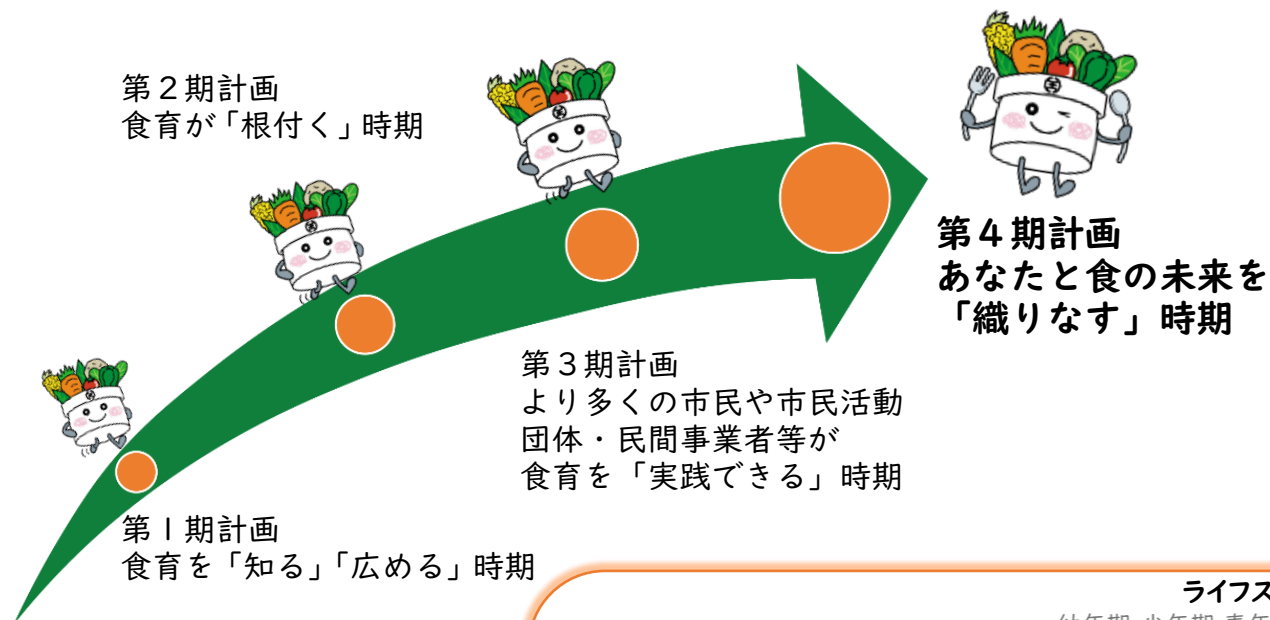
■八王子産の農産物の購入状況×性・年代別のクロス集計



## (2) 計画全体を通した視点・考え方

第1期計画では食育を「知る」「広める」こと、第2期計画では食育が「根付く」こと、第3期計画ではより多くの市民や市民活動団体、民間事業者等が食育を「実践できる」ことを到達点とし、計画を推進しました。

第4期計画では取組ごとにライフステージ(縦系)と9つの作戦(横系)を組み合わせ、両系が織りなすイメージで食育を展開します。さらに、市民、生産者、民間事業者、大学、行政など様々な主体が連携・協力することで次世代へつなげるという思いも込め、「あなたと食の未来を『織りなす時期』」とします。



9 つ の 作 戦	ライフステージ						取組数
	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	
1-1 健やかな生活を支える朝食摂取作戦							6
1-2 栄養バランス向上作戦							26
1-3 食で支える望ましい体重維持作戦							10
1-4 歯と口から始める笑顔の食生活作戦							5
2-1 みんなで守る食の安全・安心作戦							7
2-2 食と命を守る災害対応作戦							6
3-1 地域で育む食文化継承・共食作戦							16
4-1 つくる想い・つなぐふるさと愛作戦							11
4-2 未来にやさしい 食のサステナブル作戦							11
							合計 98

(3) 戦略について

ア 目標達成に向けた戦略

市民意識調査の結果やワークショップの結果、国や都の動向や市を取り巻く環境等を踏まえ、本市の食育の現状を「強み」「弱み」「機会」「脅威」に振り分け分析し、4つの戦略を立てました。(※本計画において特に重点的となる視点やワークショップにて主に意見交換された内容を赤字で示しています。)

		内部要因(市の取組による影響・効果)	
		強み	弱み
外部要因(コントロールできない時代による変化や国の動向)	機会	<p><b>【強み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな自然環境</li> <li>豊富な農地、水田</li> <li>畜産業が盛ん</li> <li>市内随一の農業生産高</li> <li>ごみの排出量の少なさ全国1位</li> <li>伝統的な食文化(かてめし、川口エンドウ、高倉ダイコン、八王子ショウガ、桑の葉など)</li> </ul> <p><b>【機会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「道の駅八王子滝山」が文化庁・食文化ミュージアムに認定</li> <li>食料・農業・農村基本計画(国)の中で、「食卓と農の現場の距離を縮める取組」の拡大が示されている</li> <li>「官民連携食育プラットフォーム」(国)による「朝食を食べよう」「バランスよく食べよう」「食や農の現場を体験しよう」プロジェクトの始動</li> <li>「桑都・八王子のふるさと料理」が文化庁・100年フードに認定</li> </ul> <p>&lt;強みを活かし、強化させる&gt;  <b>戦略4: 食と環境の調和の推進</b></p>	<p><b>【弱み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小児肥満傾向児の増加</li> <li>若い女性のやせ</li> <li>高齢者のやせ</li> <li>男性肥満者率の増加</li> <li>朝食の摂取率が低下</li> </ul> <p><b>【機会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康寿命が都の平均よりも高い</li> <li>大学が多数立地するため、学生が多い</li> <li>ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりの推進を国の指針としている。</li> <li>食や健康に関するイベントが多い</li> <li>給食センターで夏季休業中に子どもたちへ昼食が提供されている</li> </ul> <p>&lt;弱みを克服し、機会に変える&gt;  <b>戦略1: 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進</b></p>
	脅威	<p><b>【強み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5か所の学校給食センター</li> <li>100名を超える行政栄養士が在籍</li> <li>はちおうじ健康応援店の登録店舗数が増加</li> <li>市民の食育への関心や子どもを対象とした食育のニーズが高い</li> <li>子ども食堂が定期的に活動(一部朝食提供あり)</li> <li>フードバンク団体の活動</li> </ul> <p><b>【脅威】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単身高齢者の増加、高齢者の孤食傾向</li> <li>共働き世帯の増加など、世帯構成の変化による孤食の増加</li> <li>核家族化による食文化や生活様式の変化</li> <li>地域コミュニティの希薄化による、共食機会の減少</li> <li>物価高による食育活動の運営負担の増加</li> <li>学校卒業後の20歳~29歳の転出が多い</li> </ul> <p>&lt;強みを活かし、脅威を回避&gt;  <b>戦略3: 地域や関係者がつながる食育の推進</b></p>	<p><b>【弱み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害に備えた食料備蓄をする市民が約6割程度</li> <li>10・20代において、食品購入時に「気を付けていることはない」の割合が高い</li> <li>地場農産物のPR不足</li> </ul> <p><b>【脅威】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>頻発する自然災害</li> <li>食中毒の発生</li> <li>情報過多による情報選択の困難さ</li> <li>地球温暖化による、作物の収穫量・品質の低下</li> </ul> <p>&lt;弱みを克服し、脅威を回避&gt;  <b>戦略2: 食の安全・安心の推進</b></p>

## 戦略1：生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進

本市では現在、幼年期や少年期を中心とした食育が進む一方で、青年期以降の取組が少なく、ライフステージ全体を見据えた継続的な施策が課題となっています。また、多様な暮らし方に対応した情報発信も十分とは言えません。

朝食欠食の増加や、若者の食への関心の低下、小児肥満や若年女性のやせなど、食習慣の乱れが心身の健康に影響を及ぼす可能性があり、対応が求められています。

今後は、妊娠期・幼年期から高年期まで経時的に捉えたライフコースアプローチによる切れ目ない支援を行い、保育所・学校での体験型食育、大学等での学びの機会の提供、高齢世帯への支援など、多様なニーズに対応した取組を推進します。

### 戦略1の背景

#### 【弱み】

- ・小児肥満傾向児の増加
- ・若い女性のやせ
- ・高齢者のやせ
- ・男性肥満者率の増加
- ・朝食の摂取率が低下

#### 【機会】

- ・健康寿命が都の平均よりも高い
- ・大学が多数立地するため、学生が多い
- ・ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりの推進を国の指針としている
- ・食や健康に関するイベントが多い
- ・給食センターで夏季休業中に子どもたちへ昼食が提供されている

## 戦略2：食の安全・安心の推進

食中毒予防や衛生管理に加え、市民が自ら適切な食を選ぶ力が求められています。災害時の安定的な食の供給や家庭での備蓄も課題であり、現状では家庭での食糧備蓄率が約6割にとどまっています。

今後も、市民が自ら適切に食を選択する力を高められるよう、食品の情報を迅速かつ的確に発信できる体制を整備するとともに、災害時への備えを強化します。

### 戦略2の背景

#### 【弱み】

- ・災害に備えた食料備蓄をする市民が約6割程度
- ・10・20代において、食品購入時に「気を付けていることはない」の割合が高い
- ・地場野菜のPR不足

#### 【脅威】

- ・頻発する自然災害
- ・食中毒の発生
- ・情報過多による情報選択の困難さ
- ・地球温暖化による、作物の収穫量・品質の低下

### 戦略3：地域や関係者がつながる食育の推進

近年、単身世帯の増加や簡便化志向の高まりにより、孤食の増加や人とのつながりの希薄化が課題となっています。一方で、市内には子ども食堂やだれでも食堂、健康応援店など、食や食育にかかわる多くの団体や民間事業者が存在し、すでに連携による取組も進んでいます。

今後は、地域全体で食育を推進するため、学校給食センター等を拠点に、食を通じたつながりと支え合いを育む場として活用を図ります。また官民連携による「自然に健康になれる」食環境づくりを進めるとともに、地域食文化の継承にも取り組みます。

#### 戦略3の背景

##### 【強み】

- ・ 5か所の学校給食センター ・ 100名を超える行政栄養士が在籍
- ・ はちおうじ健康応援店の登録店舗数が増加
- ・ 市民の食育への関心や子どもを対象とした食育のニーズが高い
- ・ 子ども食堂が定期的に活動（一部朝食提供あり）
- ・ フードバンク団体の活動

##### 【脅威】

- ・ 単身高齢者の増加、高齢者の孤食傾向
- ・ 共働き世帯の増加など、世帯構成の変化による孤食の増加
- ・ 核家族化による食文化や生活様式の変化
- ・ 地域コミュニティの希薄化による、共食機会の減少
- ・ 物価高による食育活動の運営負担の増加
- ・ 学校卒業後の20歳～29歳の転出が多い

### 戦略4：食と環境の調和の推進

近年、気候変動等地球環境への影響が深刻化する中、食の生産・消費過程での環境負荷が懸念されるため、持続可能な食の実現が求められています。現在、食品ロス削減や地産地消の取組が進み、ごみ排出量は全国でも低水準を維持し、地場農産物の利用や郷土料理の評価も高まっています。

今後は、本市の豊かな農産物や多様な食資源を活かし、地産地消の取組を進めるとともに、温室効果ガス削減や生物多様性保全等、環境に配慮した取組を一層推進します。

#### 戦略4の背景

##### 【強み】

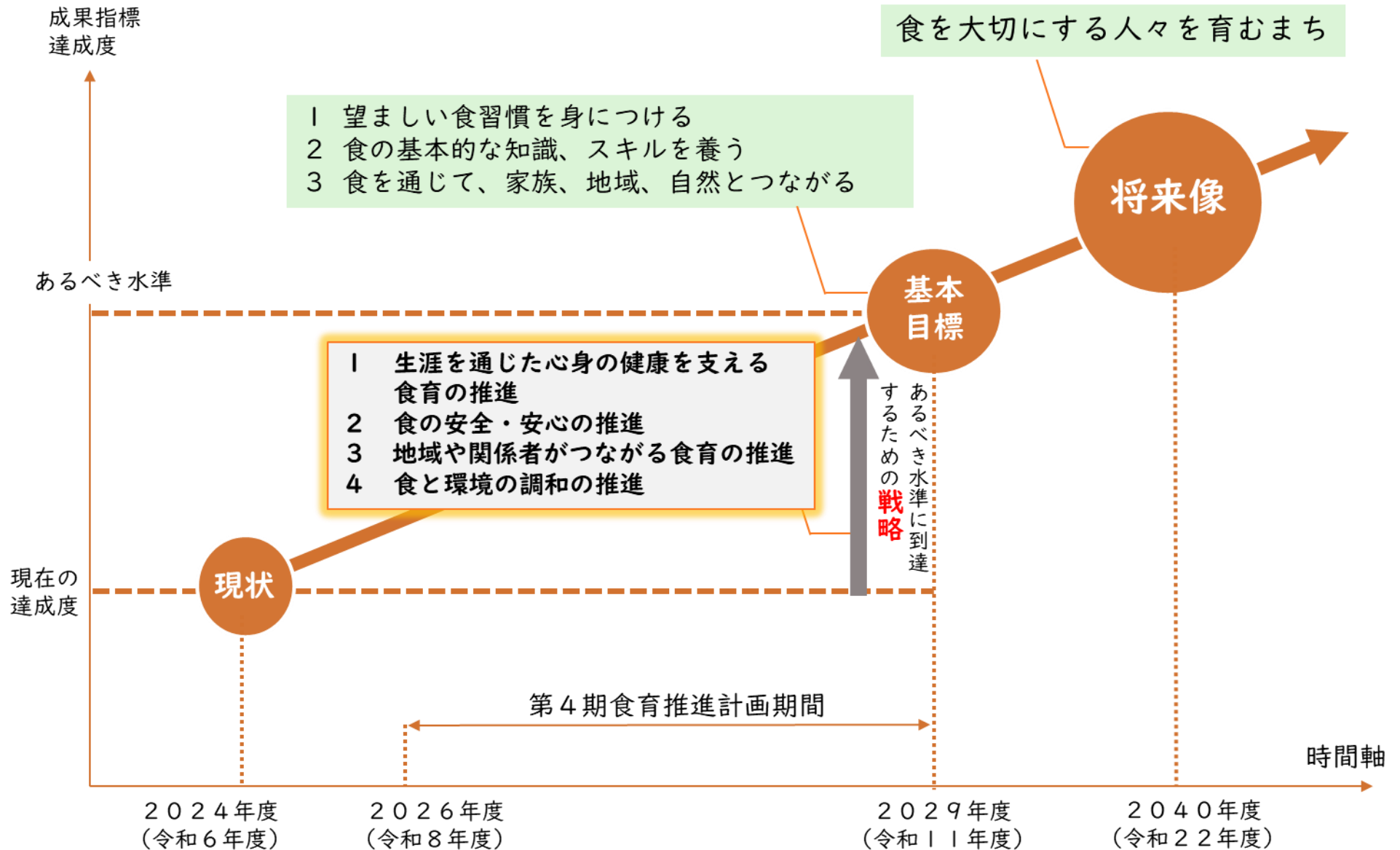
- ・ 豊かな自然環境 ・ 豊富な農地、水田 ・ 畜産業が盛ん
- ・ 都内随一の農業生産高 ・ ごみの排出量の少なさ全国1位
- ・ 伝統的な食文化（かてめし、川口エンドウ、高倉ダイコン、八王子ショウガ、桑の葉など）

##### 【機会】

- ・ 「道の駅八王子滝山」が文化庁・食文化ミュージアムに認定
- ・ 食料・農業・農村基本計画（国）の中で、「食卓と農の現場の距離を縮める取組」の拡大が示されている
- ・ 「官民連携食育プラットフォーム」（国）による「朝食を食べよう」「バランスよく食べよう」「食や農の現場を体験しよう」プロジェクトの始動
- ・ 「桑都・八王子のふるさと料理」が文化庁・100年フードに認定

## イ 戦略の考え方

本計画では、将来像と基本目標を実現するため、本市の食育に係る現状分析を踏まえ、4つの戦略を立てました。これらの戦略のもと食育を推進します。



## コラム ～みんなで描く 八王子の食の未来～

本計画づくりや今後の取組に活かすため、本市の「食」に関する現状や課題について、様々な立場の方々と一緒に考え、取組アイデアを検討しました。

### \*八王子の食の将来像(目指す姿)について

「こんな八王子になったらいいな!」を聞きました。

朝食摂取率  
NO.1のまち



食を通して人が笑顔  
になれるまち



孤食がゼロになるよう  
居場所をつくる



八王子産農産物を  
食べることで人と人  
がつながるまち



給食センターを  
活用して、災害に  
強いまち八王子



自分で食品を  
選択する力が  
一人ひとりにある



八王子産の食べ物が誰で  
も手に入れられるまち



子どもの頃から三食、  
三色を楽しめるまち



### \*取組アイデア

#### 【朝食摂取について】

- ・社員食堂やカフェテリアで朝食を格安で提供する
- ・まずは朝食を食べてみる
- ・時短で作れる朝食レシピを SNS 等で共有・拡散する



#### 【地産地消について】

- ・八王子産農産物を示すロゴを作成し、八王子産農産物をわかりやすくする
- ・種まきから収穫まで一連の作業を行える農業体験を実施
- ・八王子産のものを手に取る機会を増やす



#### 【意識啓発・情報発信について】

- ・市内の給食施設で八王子産農産物の「〇〇を食べる日」をつくり提供する
- ・行政栄養士が市内の小中学校や給食センターで食育講義を行う

#### 【共食について】

- ・民間事業者が行政と連携し、定期的にも子ども食堂等を開設する



#### (4) 共創による食育とは

基本目標を実現するため、ワークショップでの取組アイデアや意識調査の結果を踏まえ「共に織りなす食の未来」をコンセプトに共創による食育に取り組みます。

### 共に織りなす食の未来

未来を拓く原動力  
共創

多様な人たちと協働し、食に対する知識を深めながら新たな価値を生み出し、八王子の食の未来を共に描いていきます。

(例)

【朝食摂取】 民間企業×行政



【地産地消】 大学生×農家



#### コラム ～官民連携による新しい食育モデルの創出

#### 共に織りなす八王子の食の未来～

##### ■農林水産省設立「官民連携食育プラットフォーム」

農林水産省が設立した「官民連携食育プラットフォーム」に、本市も会員として加入しました。このプラットフォームでは、大人の消費者が食や農への理解を深め、健康な食事をとり、楽しい食の時間を過ごしてもらうため、官民連携により食卓と生産現場の距離を縮める「大人の食育」を目指しており、次の3つのテーマを軸に活動を展開しています。

- 1 「朝食を食べようプロジェクト」
- 2 「バランスよく食べようプロジェクト」
- 3 「食や農の現場を体験しようプロジェクト」



官民連携  
食育プラットフォーム  
食べる、生きる、楽しむ。こがねの食育。

▲プラットフォームの  
キャッチフレーズ・ロゴ

##### ■新しい食育モデルへの挑戦

本市は、民間事業者等とのつながりを積極的に活用し、互いの強みを組み合わせ、対話と共感を起点とした新しい食育モデルの創出を目指します。

市民意識調査では、朝食欠食の増加、若年女性のやせ、男性の肥満、共食機会の減少といった課題が明らかになりました。こうした課題に対応するためには、行政だけでなく、市民、生産者、民間事業者、大学などが一体となった取組が不可欠です。

都市と自然が共存している本市には、食文化や農業に関する豊かな資源が息づいています。こうした地域資源を活かし、伝統的な食文化や地場農産物を食卓につなぐことで、健康的で楽しい食生活を広げます。この取組は地域の魅力を高め、持続可能な食文化の形成につながります。八王子発の食育モデルは全国的にも意義があり、未来に向けた食育の一步となります。

## 共創による食育

### 朝食摂取～朝ごはんが、あなたの未来を育てる～

#### 3つの取組に挑戦します

子どもが朝食摂取  
できる機会の拡充

大学生が朝食摂取  
できる機会の創設

大人が朝食摂取  
できる機会の創設

#### “共に創る”をかたちにする

「共創の窓口」を活用し、市民・民間事業者・大学等の多様な主体の知見と技術を結集することで、朝食摂取の向上に資する官民連携の取組を推進します。

#### 共感を経営資源に変える

限られた公費に頼らず、寄付金・協賛金などの資金を積極的に活用し、持続可能かつ効果的な事業運営を実現する新たな仕組みの構築に向けて、検討を進めます。

#### 見込まれる社会的付加価値

- ・ 学習意欲の向上
- ・ 生活困窮世帯の経済的負担の軽減

- ・ 大学と地域の連携強化
- ・ 大学生の経済的負担の軽減

- ・ 社会参加の促進
- ・ 事業所における健康経営の実践

## 共創による食育

### 地産地消～八王子の“おいしい”をもっと身近に～

#### 3つの取組に挑戦します

子どもの体験学習  
の充実

大学生が農業体験  
できる機会の創設

地元農産物を  
活かしたまちづくり

#### “共に創る”をかたちにする

農家・民間事業者・大学等の多様な主体の知見と技術を結集することで、持続可能な食環境への意識向上に資する官民連携の取組を推進します。

#### 生産者の想いと地域の恵みを活かす

限られた公費に頼らず、寄付金・協賛金・参加料などを積極的に活用し、地元の農産物や産地の魅力、作り手のこだわりを伝える仕組みを整えることで、地域に根ざした持続可能な取組を検討します。

#### 見込まれる社会的付加価値

- ・ 持続可能な食環境への意識向上
- ・ 地域社会の活力を高める人材の基盤形成

- ・ 大学と地域の連携強化
- ・ 実践的な学びと将来のキャリア形成

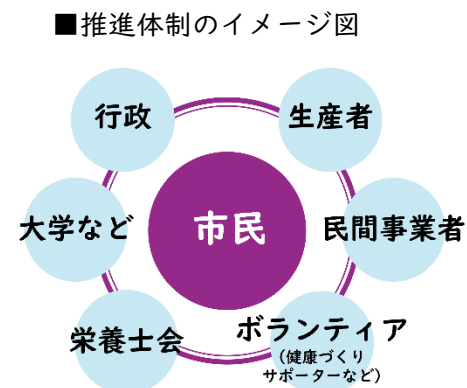
- ・ 観光交流の機会創出
- ・ 地域経済の活性化

## 4 計画の推進に向けて

### (1) 推進体制

#### 八王子らしい食育推進の展開

本計画の将来像と基本目標を実現させるため、市民、生産者、民間事業者、大学など、食育にかかわる全ての団体がそれぞれの特性や能力を活かしながら、連携・協働して効果的な食育活動を展開します。



#### ア 八王子市食育推進会議

有識者や食育の取組に携わる関係者で構成される「食育推進会議」において、計画策定後の進行管理や食育推進のあり方に関して意見交換を行うとともに、関係者と行政が互いに連携・協働することにより食育を推進します。

#### イ 八王子市食育推進計画庁内連絡会

関係部署が横断的な検討・調整を行うため、八王子市食育推進計画庁内連絡会を設置し、食育を推進します。

#### ウ 八王子市栄養士連絡会

本計画の推進にあたり、「八王子市栄養士連絡会」を積極的に活用します。この連絡会は、将来を見据えた栄養士の業務のあり方や人材育成等を、組織横断的に進めることを目的としています。

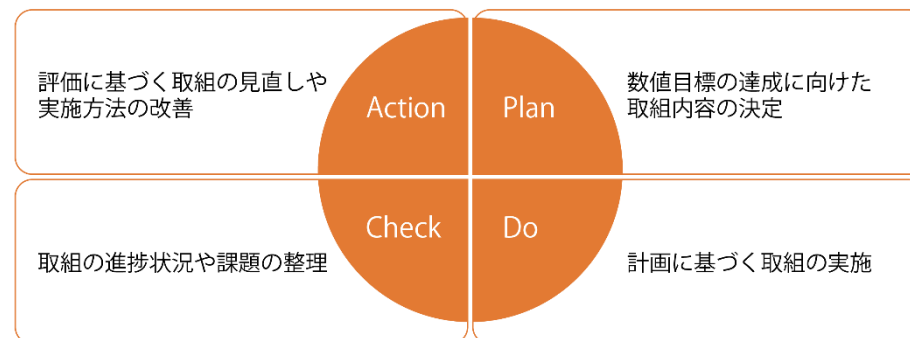
この連絡会により幼年期から高年期まで、全てのライフステージに対する包括的なアプローチを行うことで、実効性の高い食育を推進します。

### (2) 進行管理

本計画の評価にあたり、市の取組ごとに指標と目標値を設定し、取組の達成度を毎年測ります。

さらに、一定の期間ごとに、評価指標の達成状況を把握し、必要に応じて取組の見直しや実施方法の改善を行うことで、基本目標の達成に向けて食育を推進します。

#### ■PDCA サイクル図



### (3) 評価指標

達成状況を把握するため、評価指標を設定します。

基本目標	最終アウトカム	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	9つの作戦	中間アウトカム	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)		
1	望ましい食習慣を身につける 健康のために「食生活に気をつけることを心がけている」人の割合	59.4%	90%	1-1 健やかな生活を支える朝食摂取作戦	朝食を「食べていない」人の割合	幼稚園・保育園児	1.1%	0%に近づける	
						小学生	1.9%		
						中学生	7.8%		
						高校生	17.6%		5%
						大学生	37.7%		15%
一般(18歳~74歳)	13.5%	5%							
1-2 栄養バランス向上作戦	子どもの食生活に当てはまることで								
	「野菜を食べる量が少ない」と回答した人の割合	37.1%	25%に近づける						
	「好き嫌いが多い」と回答した人の割合	36.1%							
「ながら食が多い」と回答した人の割合	31.7%								
1-3 食で支える望ましい体重維持作戦	BMIが「普通体重」の人の割合	65.4%	70%						
1-4 歯と口から始める笑顔の食生活作戦	食育に関する事で、「ゆっくりよく噛んで食べることについて関心がある」人の割合	23.2%	55%						
2	食の基本的な知識、スキルを養う 食育に関する事で、「食生活の安全性について関心のある」人の割合	52.1%	70%	2-1 みんなで守る食の安全・安心作戦	食品購入時に「食品表示(栄養成分やアレルギー表示等)に気をつけている」人の割合	30.2%	70%		
				2-2 食と命を守る災害対応作戦	食料を「備蓄している」人の割合	64.6%	70%		
3	食を通じて、家族、地域、自然とつながる 食事を「楽しいと思う」人の割合	63.8%	70%	3-1 地域で育む食文化継承・共食作戦	食文化を次世代へ伝えていくことを「大切だと思う」人の割合	87.6%	100%に近づける		
					平日3食及び休日3食すべて「ひとりで食事をする」人の割合	8.3%	0%に近づける		
				4-1 つくる想い・つなぐふるさと愛作戦	八王子産の農産物を「購入している」人の割合	43.8%	60%		
				4-2 未来にやさしい食のサステナブル作戦	食品ロス削減のために「残さず食べる」人の割合	69.6%	80%		

